

予科練



No.483 令和6年

7・8月号

益人
公財団法人

海原会

○連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.26…	2
○連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》……………	3
○新理事長就任のご挨拶……………	4
○第57回予科練慰霊祭詳細報告……………	4
○第57回予科練慰霊祭寄付者御芳名簿……………	6
○航空学生基礎課程でのエピソード……………	8
○真珠湾攻撃50周年 たった一人の慰霊祭⑤……………	11
○天国へのメッセージ……………	16
○八月十五日の終戦記念日に想う……………	17
○雄翔館見学者所感……………	20
○海原会寄付者御芳名簿・事務局日誌……………	22
○お知らせ……………	23

予科練習生を偲びて久き

海軍に

敬告

さみら声なく

いく春やへし

わろ

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行
予科練習生を偲びてよめる

海はらに

はたおほそらに

散華せし

きみら声なく

いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下の御直筆で、有栖川流と申しあげ、妃殿下はその御宗家にあたられると承ります。

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 若桜の碑 No.26

「若桜の碑」は、岡崎海軍航空隊で教育を受けた予科練習生百数十名の戦没者の御霊を鎮魂する『碑』である。

昭和十九年四月一日、豊田、岡崎、安城の三市が交差する地域に整備教育担当の練習航空隊として、岡崎海軍航空隊が開隊された。予科練習生の大量採用により手狭になったため、同年八月十五日に第二岡崎航空隊が開隊し、従来の航空隊を第一と称した。

全国各地から入隊した予科練習生は、十四歳から十九歳の若者達一万八千余名で第一期から第八期までが入隊、六ヶ月の短期訓練で第一線部隊に配属になって行った。

戦後、永い間同隊出身者の消息は判明しなかったが、一期生の山崎正雄氏が中心となり、各方面に連絡し昭和四十年に岡空若桜会の結成をみるに至った。

第八回総会で航空隊跡地に慰霊碑建立の話が決まり、平和への永遠の祈りと散華した若桜への哀悼の念を込めてこの碑を建立した。



- 所在地 豊田市本町柳川瀬公園
- 建立年月 昭和四十九年十一月三日
- 問合せ 岡空若桜会

海軍飛行豫科練習生

遺書 遺詠 遺稿 辞世

遺詠

◎森 茂士 上飛曹 (二十歳) 大分県出身

国民の 安きを祈り われは征く
敵艦隊の 真っ只中に

乙飛十六期 菊水三号第七建武隊 昭和二十年四月十六日 零戦にて鹿屋発進
喜界島南東沖にて戦死

◎中原 正義 一飛曹 (二十歳) 佐賀県出身

轟沈を 胸に描きて 体当たり
空母に挑む 必殺の技

乙飛十七期 菊水三号第七建武隊 昭和二十年四月十六日 零戦にて鹿屋発進
喜界島南東沖にて戦死

新理事長就任の

ご挨拶



第6代理事長 宮本忠明

海原会会員の皆様におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

この度、安井剛前理事長の後を受けて第6代理事長に就任しました宮本忠明でございます。

海原会は、多くの会員の方々とご支援の基に、約50年に渡り予科練戦没者に対する真摯な慰霊と真の姿の伝承を積み重ねて参りました。

理事長就任に際し、この実績と伝統のある海原会の運営に係わることに關しまして、身の引

き締まる思いとともに、微力を尽くして理事長としての職務を全うする覚悟を新たにしているところでございます。

会員の皆様、関係の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和六年六月吉日

公益財団法人海原会

理事長 宮本 忠明

令和六年度四月定例理事会（令和六年四月二十日開催）において、第六代公益財団法人海原会理事長に、宮本忠明氏が就任致しました。

宮本氏は、第三十二代陸上自衛隊武器学校長を最後に自衛隊を平成二十七年に退官され、同年海原会に入会、令和5年には顧問に就任いただき今日まで海原会の運営に協力してこられました。

特に自衛隊退職後は武器学校

OB会会長として、側面から海原会の活動にご協力いただいております、安井剛前理事長が構築した、「武器学校OB会が海原会をサポートするというシステム」を推進するために今日まで大きな役割を果たしてこられました。

海原会を創設した予科練生存同窓生が激減していく海原会にあつて、今後の会が進むべき方向を的確に示していただけるものと期待が高まっております。

海原会では、予科練戦没者の慰霊と顕彰という会の目的は堅持しつつも、戦後生まれの一般会員の要望や意見を会の運営に柔軟に取り入れ、宮本新理事長を中心に役員が一致協力して新しい時代を切り開いていけるものと確信しています。

また、篠田輝男理事が副理事長に就任致しました。会員の皆様には、海原会の新しい体制にどうかご期待ください。

（事務局）

第五十七回

予科練戦没者慰霊祭 が執り行われました

令和六年五月二十六日、第五十七回予科練戦没者慰霊祭が五月晴れの雄翔園で、ご招待者約二百名、更に一般見学者約五十名の参列者をお迎えして開催されました。



軍艦旗翻る雄翔館

慰霊式典は、全国のご遺族を代表され甲飛第十期生力山茂樹命のご実弟力山清司様をはじめ

とするご遺族・予科練同窓生とその関係者約八十名が、海原会からは宮本忠明理事長を始めとする役員十七名が、武器学校からは星指吉見武器学校長以下十二名の幹部自衛官が、また武器学校OB会長の六車昌晃様が、更には近隣の自衛隊からは海上自衛隊教育航空集団司令官國見泰寛様を始めとする十三名の幹部自衛官の皆様が、阿見町からは千葉繁町長をはじめとする多くのご来賓にご列席していただき、しめやかに執り行われました。



式典は、国旗掲揚の後、例年と同じように下総教育航空群隊員による儀仗が行われ弔銃の音

が、まるで戦没予科練生の御霊を呼び起こすかのように、かつて彼らが訓練に勤しんだ旧土浦海軍航空隊跡に響き渡りました。

宮本理事長からは、

「・・・・・・私たち海原会は、年に一度ここ雄翔園に集い、多くの参列者の皆様とともにご英霊の前に頭を垂れる時間を共有させていただいております。本日は皆様と共に、予科練戦没者の御霊の安らかならんことを願うとともに、この国の平和のために自分は何をなすべきかということ静かに心に問いかける一日にできたらと願う次第です。」

と祭文が読み上げられました。

その後、星指学校長、國見海上自衛隊教育航空集団司令官など十二名の代表者による献花が行われ、引き続きご来賓3名からお言葉をいただいた後、ご遺族代表の、力山清司様からご挨拶を頂戴し、海原会行方滋子参与による、丙飛十二期生の故高瀬丁海軍二等兵曹の遺書の朗読へと続き、式典終了後には参列

者全員による献花が執り行われました。



参列者全員による献花

慰霊祭は今年で五十七回目を迎えましたが、参列をいただいた同窓生は五名と少なくなっていました。式典では乙飛二十三期生の人間国宝で陶芸家の井上萬二様（佐賀県唐津市在住）が、同窓生を代表して追悼の言葉を述べられました。

そのほか甲飛十三期生の磯野栄佐様、甲飛十五期生の住谷定様、甲飛十六期生の塩澤貞夫様、甲飛十六期生の豊岡昭様が参列されましたが、何時までもお元気で来年もまた来年も

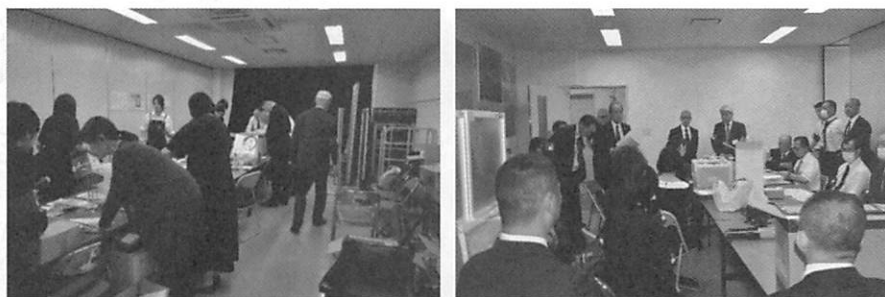
雄翔園でお会いしたいと願うばかりです。



乙飛23期井上萬二様追悼の言葉

今年は、更に高松宮喜久子妃殿下の大姪で徳川慶喜家第五代当主の山岸美喜様をご来賓にお迎えしました。山岸様は、先の大戦で亡くなられた戦没者の皆様の事は、広く後の世にも伝えていかねばならないと、様々な活動を行っておられ、今後海原会とも連携を深めていきたいとお言葉を頂戴いたしました。さて、今年の慰霊祭は、自衛隊員が八十七名、その他の支援者が七十二名で総勢一五九名の皆

様に支えられて開催することが出来ました。



ボランティアの皆さんによる準備の様子

昨年までは受付やお弁当の交付あるいは会場案内など慰霊祭の実行に直接かわる多くの分

野を武器学校OBの皆様を担当していただいておりますが、今年の慰霊祭からはその模様が一变し、ほぼ九割の支援は一般のボランティアの皆さんに担任していただけるようになりました。



受付の様子

また、各セクションのリーダーもこれまで担っていたいた武器学校OBからボランティアの皆さんに移行いたしました。慰霊祭の形態も、またその斎行のやりかたも時代と共に大きく変化しています。

列者の内容も従来と変わり、これを支援する人々の内容も変化した時に、どのような慰霊祭を目指していくのかが、今後我々海原会に課せられた一つの課題のような気がします。



笑顔でお別れの挨拶

「来年もまた、皆様と元気で、笑顔でお会いしたい」、本日勤務した全ての支援者の思いです。少しだけ休息をとって、頭と体を休めたらすぐに第五十八回目の慰霊祭の準備が開始されます。

英霊たちの思いを背負い、皆様の笑顔に会いたくて

(第57回予科練戦没者慰霊祭実行委員会)

**第57回予科練戦没者慰霊祭
玉串奉納者御芳名簿**

一千元	兵庫県芦屋市
石田 典生 様	
五千元	茨城県土浦市
石田 和美 様	
三千元	千葉県八千代市
池田 守 様	
五千元	兵庫県伊丹市
池田 哲勇 様	
一万元	愛知県岡崎市
池 太郎 様	
一万元	千葉県千葉市
井口 尋臣 様	
一万元	東京都世田谷区
飯田 史雄 様	
五千元	茨城県筑西市
荒井 貞光 様	
三千元	東京都豊島区
天野 尚夫 様	
五千元	茨城県阿見町
安部 次男 様	
五千元	千葉県千葉市
秋山 孔孝 様	
五千元	東京都世田谷区
明石 英次 様	

五千円	茨城県ひたちなか市	五千円	岐阜県各務原市	三千円	東京都江東区	一万円	山梨県笛吹市
藍原 壯介 様		磯貝浩次郎 様	金崎 幸夫 様				三枝かずみ 様
三千円	茨城県日立市	五千円	茨城県小美玉市	一千円	神奈川県横須賀市	五千円	千葉県香取市
小野寺美智子 様		齊藤 裕行 様	武石 政之 様				成毛 勝義 様
一万円	東京都港区	一万円	愛知県西尾市	二万七千円	茨城県龍ヶ崎市	五千円	愛知県東栄町
小野 亜紀 様		近藤 新市 様	近藤 侑雄 様	高瀬龍太郎 様		夏目 博史 様	
三千円	茨城県阿見町	三千円	千葉県柏市	一万円	東京都品川区	一千円	茨城県龍ヶ崎市
大竹 恵美子 様		近藤 侑雄 様	茨城県土浦市	三万円	静岡県静岡市	一千円	中村 美詩 様
五千円	茨城県阿見町	三万円	小林 宏至 様	五千元	菅野 寛也 様	一千円	茨城県龍ヶ崎市
三千円	佐賀県基山町	一万円	千葉県千葉市	五千元	埼玉県鳩山町	一万円	熊本県熊本市
大石 浩隆 様		小林 和夫 様	埼玉県さいたま市	五千元	東京都江戸川区	三千円	永光 頼光 様
三万円	埼玉県さいたま市	五千円	小島 卓 様	五千元	塩澤 貞夫 様	一万円	福岡県久留米市
三千円	茨城県常総市	三千円	千葉県香取市	五千元	福島県川俣町	三千円	豊田重次郎 様
遠藤 利 様		國分 迪夫 様	東京都渋谷区	五千元	佐藤 智子 様	一万円	東京都葛飾区
五千円	福井県福井市	五千円	航 翔 会 様	五千元	新潟県新発田市	三千円	豊岡 昭 様
一万円	内田喜代子 様	三千円	茨城県阿見町	五千元	埼玉県宮代町	一万円	茨城県阿見町
二万円	東京都世田谷区	一万円	栗原 宜行 様	四千元	佐藤 誠子 様	一万円	大阪府堺市
五千元	岩澤 末三 様	五千円	広島県呉市	一千円	熊本県菊池市	三千円	都築 倍彬 様
二万円	群馬県太田市	五千円	久保 慶子 様	三千円	坂本 眞菜 様	一万円	静岡県伊豆市
五千元	今井 アサ子 様	五千円	福島県楢葉町	三千円	東京都青梅市	三千円	土屋 政美 様
二万円	宮城県岩沼市	五千円	工藤 垂穂 様	三千円	酒巻 勝 様	一万円	東京都多摩市
井上 萬二 様		神奈川県横浜市	黄田真知子 様	三千円	東京都大田区	五千円	兵庫県加西市
一万円	神奈川県川崎市	一千円	茨城県水戸市	三千円	茨城県かすみがうら市	五千円	為平 浩一 様
伊藤かをり 様		樫村 弘明 様		酒井 賢治 様		谷口 五郎 様	

一万円	福岡県北九州市	五千円	東京都荒川区
五千円	田中 英子 様	一万円	鳴澤佐武郎 様
五千円	千葉県船橋市	(有) 日本産業広告社 様	東京都千代田区
三千円	水澤 成雄 様	一万円	東京都千代田区
三千円	愛知県名古屋市中区	吉田 一則 様	
一千円	松本 順子 様	五千円	埼玉県さいたま市
五千円	茨城県土浦市	横溝 マツ 様	
五千円	眞島 博厚 様	五千円	茨城県阿見町
一万円	群馬県高崎市	横張 浩 様	
一万円	本間 謙伸 様	三千円	茨城県阿見町
一万円	東京都調布市	湯原豊一郎 様	
一万一千円	保坂 俊雄 様	三千円	茨城県つくば市
一万円	長崎県長崎市	八町 仁志 様	
一万円	藤原 直太 様	一万円	栃木県足利市
一万円	静岡県御殿場市	山岸 修次 様	
一万円	福本 貞之 様	一万円	埼玉県熊谷市
五千円	福島県原町区	安田 直弘 様	
五千円	長野県大町市	五千円	茨城県古河市
五千円	平林 峰子 様	五千円	八代 敏夫 様
一万円	宮崎県延岡市	五千円	東京都国分寺市
五千円	平野 勇二 様	七千円	埼玉県北本市
五千円	神奈川県横須賀市	一万円	宮下 久代 様
五千円	服部 義隆 様	一万円	茨城県鉾田市
五千円	神奈川県逗子市	一万円	宮崎 修士 様
五千円	野口 忠洋 様	一万円	兵庫県神戸市
五千円	茨城県阿見町	水本 滋信 様	
五千円	難波千香子 様		

一基 長崎県大村市

一基 力山 清司 様

一基 茨城県阿見町

一基 武器学校OB会長

一基 愛知県名古屋市中区

一基 山岸 美喜 様

一基 群馬県太田市

一基 今井 アサ子 様

一基 生花1組埼玉県熊谷市

一基 安田 有佐 様

一基 清酒1本神奈川県南足柄市

一基 金井 克巳 様

一基 清酒4本埼玉県熊谷市

一基 安田 直弘 様

一基 茨城県つくば市

一基 川口 義夫 様

一基 長野県千曲市

一基 北村 直也 様

航空学生基礎課程での エピソード

二十六期航空学生

中垣 達朗

皆様初めまして、中垣達朗と申します。先日、日頃から大変お世話になっている海原会会員の力山清司様から突然、「海原会の機関紙に投稿してくれませんか？」と依頼半分の命令を受けまして誠に僥倖ながら投稿させて頂きました。

私は昭和四十九年に海上自衛隊航空学生二十六期として入隊し、低空飛行ながらもなんとか卒業、その後訳あって海上自衛隊は退職しましたが、昨年三月まで約五十年間ヘリコプターパイロットとしての人生を歩んでまいりました。その中でも一番思い出が多いのが自衛隊入隊から約一年半の小月基地での「航空学生基礎課程」(海軍の予科練課程に相当する期間)でした。本会の機関紙「予科練」を

お読みの皆様は予科練に関してよくご存じかと思えますので、今回は海上自衛隊の航空学生生活についてエピソードを加えご紹介したいと思います。ただ入隊からすでに五十年が経過しており記憶も定かでない部分もありますのでその点につきましては何卒ご容赦いただきますようお願いいたします。

「基礎課程」はまず高校卒業の若者を海上自衛官として叩き上げるところからスタートになります。従って一番初めの訓練は敬礼や行進の仕方と言った基本動作の訓練です。敬礼は見ていると簡単そうですが「腕を四十五度から持ち上げて帽子のつばに当たるまで最短距離で持つてくる。この時、正面から手の裏が見えないように。」と言われますが実際にやってみると手首や首が曲がったりとなかなか様にならないのですし、脇が開くと「それは陸軍式ー」と喝を入れられたものです。行進も身長の違いが同じ歩幅で、か

つ横一線で歩くのは非常に難しく、行進一つでその部隊の練度が判ると言うのも判るような気がします。これができるようになる、今度は小銃を携えての訓練に移行し、最後は野外での戦闘訓練（ここはもう少し後になります）で一連の訓練が終了となります。笑話ですが私の歩幅は今も多分七十五cm、嫁から「軍隊かー」とよく言われます。

上記の訓練は三自衛隊とも共通の訓練ですし、陸上自衛隊に比べると海上自衛隊の訓練は子供騙しのようなものだと思いますが、我々を苦しめたのは「短艇訓練」でした。予科練出身者も苦労したようですが、とにかくお尻の皮が剥けて出血したのは人生で初めての体験でした。短距離の競歩（競走）も苦しいのですが遠距離を漕ぐ「遠漕」はマラソンと同じでその時の気象条件によっては厳しいものでした。

短艇訓練の次に待っているの

が「水泳」です。私自身は泳げましたのでそれほど苦にはなりませんでした。北海道や東北出身者は泳げない者が多く、俗に言う「赤帽」を被らされ、体育教官の元「死の特訓」だったようで、この四月に行った五十周年同期会の席でも元赤帽の一人は「航空学生訓練の中で水泳の特訓が一番苦しかった。」と言っておりました。ただ、指導

の成果は目を見張るものがあり、全く泳げなかった者が次の年には海上自衛隊の水泳大会に参加し好成績をあげ、教官方が大喜びするという一幕もありました。水泳訓練の総仕上げは「遠泳」になりますが、海はプールよりも浮きますので、疲れることは疲れませんがそれほど苦しかったという印象は無く、むしろ思い出に残る訓練だったイメージが強かったように思います。

遠泳が終わる頃になると体力も付いてきて初期の目的である「海上自衛官」を作るといった部分は終了になります。ここで

自信を持つことができればこの先航空学生として生き残れることができれば、自信を失ってしまえば「夏季休暇」と同時にフエイドアウトしてしまうこととなります。

夏季休暇が終わると先に述べた「野外演習」や航空自衛隊航空学生とのスポール（スポーツ）交流会に向け汗を流し、冬が迫ると持久走訓練へと移行していきます。また厳冬期には大山に行つてのスキー訓練もあり、苦しいながらも楽しさが見えてきますので「夏季休暇」以降の訓練はそれほど苦になつた思い出はありません。また十二月以後は上級生の全員が飛行課程（第二〇一教育航空隊）に進んでしましますので、天下は我らのものとなります。

予科練の方々が「棒倒し」と「器械体操」について多く語られておられますが、負傷者が出る、後の操縦訓練に直接結び着かないこと？から航空学生の訓練では実施されることは

ありませんでした。ただ倉庫の片隅に昔使ったであろう鳥籠（すみません、正規の名称を知りません。人が中に入り回転させる例の器具操転器と言うようですが、当時はゆっくりと調べる時間も無く、我々同期の間では鳥籠と言っておりました。）は残されていました。

さて、最後は皆様が気になる「罰直」についてです。予科練の回想には必ず、鉄拳制裁と精神注入棒によるバッテリーがでてきますが、我々航空学生二十六期以降のクラスは全く経験していません。（バッテリーはそれ以前から禁止されていたと思われる。）これには当時我々の属していた第二二教育航空隊の司令の存在があったからです。当時の司令は岩戸一佐、どこかでお聞きになられた苗字ではありませんか？そうですあの有名な厚木海軍航空隊の岩戸良治中尉だったのです。司令からの命令は「鉄拳制裁、個人的な罰直は絶対に禁止」との厳しいお達

しであつたようで、一期先輩の方々からよく「いいな、二十六期は」と言われたものでした。岩戸司令から何回か「訓育」を受けたことがあります、内容は「戦犯になった私を海上自衛隊はよくぞ拾ってくれた。君たちは幹部搭乗員として立派に育つて貰いたい。」との二本柱だったように記憶しています。

（厚木航空隊の詳しいことはお話しにはありませんでした。）司令は当時五十歳を過ぎたくらいで、我々若い学生に対しては優しい親父さんのような存在でした。しかしながら教官方にとっては顔を合わせるだけで背筋がピンと伸びるような方だったのだろうと思います。

従つて、鉄拳制裁・個人的な罰直はなかつたものの「全体責任」という言葉の元、腕立て、前支え、グラウンド〇〇周駆け足等は日常茶飯事でした。（これも現在では行われていないと思います）

もう一件、記憶に残っている

エピソードが飯田房太大尉の妹様（そのように記憶していたのですが間違いかも知れません）が我々航空学生のために立派な国旗掲揚台を寄付して頂いたことです。大変申し訳ないのですが、飯田大尉のカネオへ基地への突入のお話しを知つたのはこの時が初めてで、大きな感銘を受けました。妹様のお話しは

「飯田大尉は士官搭乗員となり戦地で活躍をし、突入は本望であつたと思う。これからの日本が戦争の無い平和な国になつてもらいたい。」という趣旨であつたように記憶していますが、きつと内心は「戦争で犠牲になつた方々が必死で守ってくれた日本をこれから守るのはあなた方ですよ。」と言いたかつたのだらうと思います。

海上自衛隊は航空自衛隊よりも航空機の導入が遅れたこと、海自の航空機が対潜水艦用だったことから海軍の搭乗員はほとんど在籍されておらず、基礎課程で海軍のお話しを伺つたのは

この二件だつたと思います。

部隊に出るからは何度か海軍の元搭乗員の方からお話しを伺うことはありましたのでまた機会がありましたらご紹介させていただきますが、今回はこの辺りで結びとさせていただきます。拙い文を御拝読頂きましてありがとうございます。

最後になりましたが、命をかけてこの国を守って頂きました予科練の皆様方に感謝申し上げますとともに心からご冥福をお祈り致します。

【略歴等】

- ・出身地…奈良県
- ・昭和四十九年四月、海上自衛隊入隊（航学二十六期）
- ・搭乗機…哨戒ヘリコプター等
- ・平成四年年十二月、海上自衛隊退職
- ・退職後
- ・搭乗機…消防防災ヘリコプター（防災ヘリ）、救急医療用ヘリコプター（ドクターヘリ）

終わり

真珠湾攻撃50周年 たった一人の慰霊祭⑤

第四代理事長

菅野 寛也

数回に及ぶ真珠湾の慰霊祭に参詣しているうちに、何時もフライト・チケットの手配を依頼している旅行社より、「患者さんの『ツアー』の付添いを願えないか?」との話があった。透析患者の旅行の際は、「透析の予約」が必要であるが、幸いハワイには日系の施設があるからである。学会等の無い「六月中旬の数日間なら都合をつけよう」と返事しておいた所、直前になって「人数が少ないので、団体としての計画は中止しますが、少人数で個人的なツアーになります。」と連絡があった。

人数が少ないからと言ってエスコートを止めるのも悪いので同行し、透析の予定日は、アロハ・ダイアリス・センターを

訪れた。ここは、灰田勝彦さんの伯父さんが創設された病院で、一応は日本語の判るスタッフが、お世話している。院長の瀬戸博士も日系の方だが、「Dr. SETO」を、スタッフは、「ドクター、シート」とお呼びしていた。やはり英語の国である。

欧米では、ダイアライザーは再使用しているが、この点をお聞きしたら、「日本のペイシェントは、デイスポサブルのダイアライザーを使用している。」と言われ、患者さんも安心していた。然し、ここでも医療費の問題が提起されている訳である。

透析スケジュールの合間には患者さん達は、観光へ出掛けるので、私は貴重な時間を無駄にしまいと、跳び回ることになった。

先ず、フィスクさんと、アリゾナ参詣。ビクターズセンターからのボートは殆どアメリカ人で、東洋系の人も数人居たが、日本人かどうかは、判らない。

何時もの事ながら、行きの船内では、何となく緊張する雰囲気だが、フィスクさんとメモリアルでの慰霊、献水の儀を行うと全くムードが一変する。B-29搭乗員遺品の水筒は、将に「神器」となった。そして、写真や、サインをせがまれたり、フィスクさんと共に大忙しであったが、これが、良い意味でのアメリカ人気質であろう。

デ・ヴィルジーリオさんも駆け付け米海軍、太平洋軍の人達と、来年の終戦五十周年のセレモニーについての交渉を始めたが、流石に軍関係は、タイトスケジュールで、フィスクさんデ・ヴィルジーリオさんの意向通りには難しいようだ。先方にしてみれば、「戦勝記念のセレモニー」の方を優先するのも仕方ないことであろう。然し、五十周年に、日米の「ニュービギニング」のセレモニーを挙行したいとの意向はあるようだ。次にイースト・ウエストセンターのホワイト博士を訪れ

た。(ジェフリー・M・ホワイト、ディレクター、プログラムフォークルチュラルスタディーズ)

ここは、天皇陛下も訪問された所で、ハワイ大学の隣接地と言うより、大学の構内とも言うべき所で、歴史館や、ジェファソン・ホールや、ケネディ・シアター等、由緒ある建物が、広大な緑の敷地に立っている。奥の方にある東洋風の建物があるので、尋ねたところ、「医学部」とのことであった。

ホワイト博士がジェファソン・ホールの奥の方にある平らな芝生の中に、「日米友好の碑」を建て、かつて矛を交えた日米の人達で、セレモニーを挙行しようという提案があった。

「あそこは、フラットだから良いでしょう。場所を見て下さい。」と言われ、デ・ヴィルジーリオさん等と確認に行ったが、流石に落ち着いた雰囲気の中であった。建物の奥の方に綺麗な芝生があり、又、建物の裏

側には美しいせせらぎの流れている日本庭園があり碑を建てるに相応しい所である。

これで今回の第二の目的も、略、達成したことになる。

帰国後、早速、海原会（予科練）会長前田さんと、吉田氏に報告、準備をすすめることになった。

フィスクさんも、毎週金曜日はアリゾナ・メモリアルでボランティア活動されており、忙しい方であるが、パールハーバーサバイバーズ・アソシエーションのバイスプレジデントを務めておられる。丁度毎月のサバイバーズの例会があるので、招待された。文字通り、真珠湾攻撃当日、空襲下で反撃し、生き残った人々である。

パールハーバーの近くのクラブに、約三十名の会員と御夫人等が参加された。ハワイに居る殆どの会員が毎月、参集されるのである。

フィスクさんの敬虔なお祈り

で会が始まり、やがて皆に紹介された時は、流石に緊張したがフィスクさんの人柄か、和やかなムードで進行した。只数名の会員から、「天皇がパールハーバーへ来られないのは大変残念。がっかりした。」と言われたので、「陛下は、私と同じ年だから、御本人は参詣の意思はおありだったと思う。然し、日本のガバメントは石頭だからパンチボール参詣に変更されたのだと思う。」と答えた。

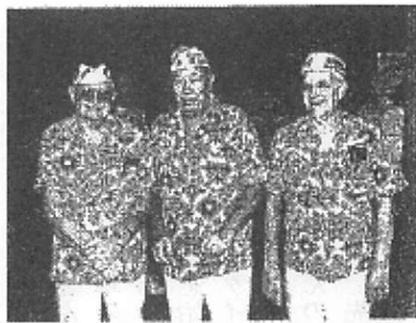
やはり、ここは「古戦場」なのである。

更に、シヨッキングな話題で、昨年十二月七日に会員の一人が亡くなり、遺言通り戦友の眠る、アリゾナへ水葬されたそうである。身の引締まる思いがしたが、皆親切に食事やワインをすすめられて恐縮した。

一応、日米合同慰霊祭の件も報告し、「これはずっと続けたと思う」とスピーチしたら拍手と共に「サンキュー」と言わ

れ、ホッとした。

散会時の挨拶は、シーユーアゲインであるが、本当にそう願いたい。フィスクさんは、「これからも、参加してくれ。」と言われた。



“パールハーバーサバイバーズ・アソシエーション”のメンバー

帰国前日は、海上自衛隊の元連絡官、古宇田一等海佐の紹介で在ハワイの小笠原氏にお目にかかった。ホノルルの報道官とも言うべき方で、ホノルル・プロダクション・コーデネーション・インターナショナルのプレジデントプロデューサーである。

これも不思議なもので、記念艦「三笠」でお逢いした秋山眞之先任参謀のお孫さんで、神奈川県元県会議員、大石尚子さんを通じて、知己を得た方である。

丁度、リムパックのため入港して来た自衛艦「くらま」を出迎えに行った。軍艦旗を靡かせ乍ら、五千トンの「くらま」の入港は、堂々としていたが、五十年前を思うと感無量であった。

帰途、小笠原氏宅で、彼の製作によるビデオを拝見した。真珠湾秘話とも言うべき、ドキュメントで、一つは、空襲時よりずっと日本の搭乗員の遺骨を供養して下さった日系婦人のストーリーで、この遺骨が、千鳥ヶ淵の「無名戦士の墓」に納骨されたのだが、その時は、肉親に別れを告げるように悲しそうな顔をされていたのが印象的であった。

二本目は今年TBS系で放映

された「舞鶴の桜」の物語である。広島出身の高木さんが戦後、日系二世兵士として日本へ進駐し、家族と巡り会ったり、縁あつて、舞鶴に寄贈された桜が見事に開花していた話であつた。驚いた事に、ビデオには映っていないが、小笠原さんの説明で、この方が「たった一人の慰霊祭」の項で書いた、朝日三飛曹を救出しようとされた方だとのことである。

真相は、拳銃自殺でなく、怪我をしていた朝日三飛曹を救出しようと、ライフジャケットを引き寄せた所、救出を拒み、ジャケットを脱いで沈んで行ったとのことである。改めて御冥福をお祈りする。

そのライフジャケットを持ち帰って高木さんは、米軍から「朝日」の文字の意味を聞かれたが、当時は、日本語が読めず、「わからない」と答えた所、「何か、かくしているのだろう」と大変厳しく尋問されたらしい。

その後、二世部隊へ志願し、ヨーロッパ戦線へ従軍し、戦後日本へ進駐して前述の物語となつた訳である。今回はお目にかかれなかつたが、次回ホノルルを訪れる時には是非、お逢いしたい人である。

終戦五十周年を来年に控え、この様な史実は、今語り継がなければ、歴史の中に消え去ってしまうと思ひ、敢えて書かせて頂いている訳だが、最近、どうしても納得出来ない政治発言が多いので、この点について更に述べたい。

細川元総理や、村山首相等の「大東亜戦争日本侵略説」である。

社会党を始めとする、何時も、「反対の為の反対」を唱えていた政党の委員長としての発言ならいざ知らず、責任政党となつて一国の首相となつた人のいふべき言葉ではない。大東亜戦争で戦死された英霊や、遺族の立場から見れば、身内が「侵

略行為で亡くなった」とされたのでは、たまつたものではない。生き残つた戦友も耐えられない。

もう、十五年前の事であるが、零戦のエース坂井三郎中尉や、海軍航空隊、陸軍の遺族の方々と、私が団長を仰せ付かつて、ラバウル、ソロモン群島へ慰霊に訪れたことがある。

出発前は、現地の反応が些か心配であつたが、行つて見ると、何処へ行つても信じられない位の大歓迎を受けた。

ジャングルの奥深くジープで入つて行つても、必ず、大勢の原住民が、あつと言う間に集まつて来て、「ニッポン、ジャパン」の大合唱であつた。更には、日本語で、ナツメロや、童謡、そして軍歌迄歌ってくれる。

我々も、ササヤカナ、土産を持参したが、決して争つて奪い合ひをすることは無かつた。

「何故、こんなに我々を歓迎してくれるのか？」疑問に思つ



一九八〇年九月、ラバウル飛行場にて左より守屋主計長、高島通信長、坂井三郎中尉、私、一人置いて遺族の金田さん（「背影の山は「花吹山」）

て何回か質問してみたが、異口同音に、「日本の人は、征服者を追い払い、生活に必要な事を我々に教えてくれた。（ラバウルの桃太郎農園等の農耕を始め

として、良い意味での教育がされていたらしい。」それ以前の支配者（イギリス、フランス等）は、決してそんな事は無かった。」と語ってくれた。

そして我々は「パプアニューギニア」当局から、「一週間の名督市民」の証を頂いた。

一方、いまだに、準支配者のオーストラリア人等に対しては、非常に冷淡である。その為、我々が歓迎されている傍らで、以前の支配者達が惘然として眺めていた。

ある晩、とうとう、その一人が我々に、「慰霊祭と言うが、お前達だけが悲しい目にあっている訳では無い。」と言って酒の勢いもあって、突っかかって来て、一悶着起こしたこともあった。

彼等に見れば、優越感と劣等感の間で「頭に来た」のであろう。

かつての支配者を追い出したのは、紛れも無く「日本軍」で

あるからだ。

昭和十六年十二月八日、大東亜戦争勃発当時の東南アジアは、全部、イギリス、オランダ、フランス、アメリカの領土であった。所謂、連合国の領土であり、戦った相手は、連合軍なのだ。支配されていた国が、戦後、皆、独立国となったのだから、もし「日本が侵略国」と言われるならば、それ以前の支配者、欧米諸国が侵略者でなくて、何であろう？

又、戦争の被害を受けたのは、我々日本国民も同様であり、戦後補償を求める権利がある筈だ。それを棚上げにして、自国を侵略者呼ばわりするのは、まさに、売国奴であり、マゾヒストである。然も、戦後補償は、国としては講和条約で賠償しており、今後の補償は、どんな型をとっても我々の「血税」でまかなわれる訳だから我慢出来ない。

先日産経新聞にも私と同様

な意見が述べられていたが、戦後補償は「言い出した政治家」が私財を提供して補償すべきである。

杉山熊男先生が、海軍軍医として、落下傘部隊降下五十周年に「メナド」へ行かれた時も大歓迎を受けられたとお聞きしたが、当時の隊長、堀内大佐は、善政を施されたにもかかわらず、戦後、戦犯として処刑された。これは、占領地を追い出された「オランダ」の報復である。

更に書きたい事実は、我々が訪れたブーゲンビル島のことである。

この島は、連合艦隊司令長官、山本五十六大將が戦死された地であるが、ここに、世界第三位の産出量を誇る露天掘りの銅山がある。この銅山の地主に支払われる権利金が、僅か一%なので、数年前、暴動が起きて、危険なので、旅行者は立ち入り禁止となっている。いまだに旧支配者の搾取は続いているので

ある。

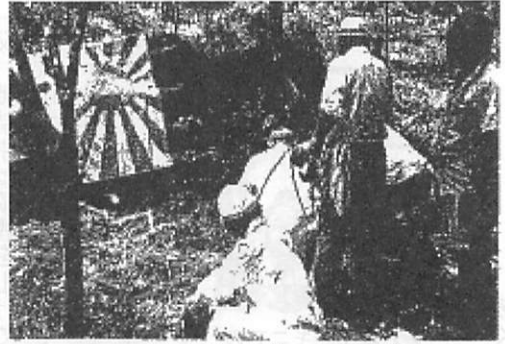
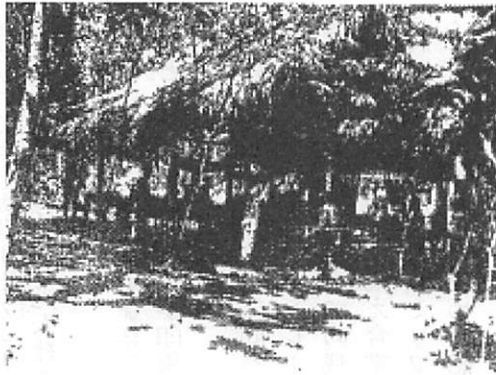
この島を訪れた時、この地で亡くなった御主人の慰霊を願って同行された浜松の金田さんをエスコートして、マイカの旧陸軍病院（第七六兵站病院）跡を訪ねた。

案内してくれた原住民も、川でジープが、深みに嵌って、全員あわや遭難という危険な目にあい乍ら、とにかく、懸命に案内してくれた。そして、漸く、病院跡へ辿り着き、遺族の涙にもらい泣きし乍らの慰霊祭に、彼等も神妙に頭を垂れて参列してくれた。

そして、「日本人は、良い人だ。」と慰めてくれた。これは、ラバウル等、他の地でも全く同様であった。それだけに、元支配者達の暴利を貪る姿勢に反発したのであろう。

この帰途、更に驚いた事がある。

「私の祖父（菅野憲寛：私が生まれた頃、静岡市の医師会長



マイカ陸軍病院跡での慰霊祭

昭和十八年、ソロモン群島ブーゲンビル島
マイカにあった第十七軍麾下の陸軍病院

陸軍軍医学校より派遣の視察官が訪れた時の
光景。患者は戦闘帽をかぶって正座し、
蚊帳はまくり上げられている。軍医が視察
官に敬礼しているのが認められるが、こん
な立派な病院で治療を受けられる者は、最
大の幸福者であった。(第八艦隊第一通信
隊先任下士 高島兵曹の説明文)

であった。)が、日露戦争では
大変苦勞して、『沙河の会戦』
では血糊のおむすびを食べべ
ら、傷病兵の手当てをしたそう
だが、あの兵站病院の軍医も、
さぞかし、苦勞されたことだろ
う」と話した所、エース坂井中
尉の伯父さんと、海軍五八二航
空隊の主計長、守屋清さんのお
父さんが『沙河』で戦ったと言
われ、びっくりした。

僅か、二十名足らずの一行の
中の「三人」も元戦友の子孫で
あったという事で、場所が場所
だけに、歴史の重みをぐっと感
じた。

私の体験だけでも(勿論、ほ
んの一部だが)これだけの歴史
を論ずることが出来るのであ
る。

それなのに昨今の首相(若し
くは、首相候補)は、戦争責任
を謝罪、補償するのが政治改革
であるが如く「コメント」して
いる。これは首相の「椅子」が
ちらつくからに他ならない。

勿論、戦争が良いか、悪いか、
を論ずれば誰でも答えは同じ
「ノー」であろう。

然し戦争を避ける為には、そ
の背景の歴史を学び、その上で
反省しなければならない。これ
は、一方の国のみならず、交戦
国、関係国も共に反省しなけれ
ばならない。

従って、日本の首相たる者、
自国の反省をする際は、キチン
と正確な歴史を国民に教え、旧
支配者にも反省を促す決意がな
ければ片手落ちである。

マレーシアのマハティール首
相に「五十年前の戦争の謝罪
は、理解出来ない」と迄言われ、
現状非認識も甚だしい。パール
判事の日本無罪論を読むが良
い。

こんな首相が居る限り、自国
の卑下ばかりしていたのでは、
青少年はおろか、次世代の教育
が出来る訳が無い。

このような首相を持たされた
国民こそ、哀れと言うべきであ
る。

又、前述のような歴史的主張
をする為にも、先ず、彼我の戦
争犠牲者の霊には、敬虔な弔意
を表すべきである。

不肖、私が、静岡空襲の日米
合同慰霊祭を主催したり、アリ
ゾナ・メモリアルへ参詣するの
は、その為である。

行については、坂井中尉の「大空のサムライ、戦話篇」(光人社)に記載されている。

坂井中尉が、各地の慰霊祭で深々と頭を垂れていた姿が印象的であった。

特にポートモレスビーに向った時は、オーエン・スタンレー山脈を眼下の霊界に望みでの飛行中に、「御念佛」を唱え合掌されていた場面が私のハミフィルムに映っており、改めて感服した次第である。

又、戦時中は噴煙を上げていた活火山で、戦後鎮静化していたラバウルの花吹山が、最近再び噴火し、しばらく訪れる事が難しいのも残念である。



バブアニューギニアの「一週間の名誉市民証」

続く

天国へのメッセージ

甲飛1期生

宮城県大崎市出身

大友龍二さんへ

海原会会員 山形県在住

富澤奈津子

大友龍二様

貴方を知ったのは宮城県護国神社の英霊顕彰館でした。無知な私は、貴方がどんなかたかも知らず、ご遺影を前にして怖いと感じました。

この日私は、生まれ育った地の宮城県護国神社へ参拝し、県内出身の搭乗員を知るため訪れていたのです。何度か参拝していたものの、じつくりとご遺影と対面することは初めてでした。

貴方のご遺影を見た瞬間、目が合った一と感じ、そしてとて

も怖い表情をしている、と感じたのです。貴方のご遺影の前で長居できませんでしたが、貴方がいつ何処で戦死されたのかは知ることとなりました。昭和17年6月5日、ミッドウェー、飛龍。

この日から、貴方の表情が心に焼き付いて消えることはなく、貴方から心を強烈に捕らえられました。

それから勉強を続けるうち、貴方の戦死した状況を知ることとなりました。とても心が痛かった。

その後、もう一度宮城県護国神社の英霊顕彰館を参拝しましたが、その時に見せてくれた貴方の表情は、何と優しく柔らかく素敵であったことか。

不思議でした。何故こんなに優しい目をした貴方を、私は怖い！と思ったのでしょうか。私はこぼれ落ちる涙を堪えることができず、ただそこで泣くことしかできませんでした。

その後も何度も貴方に会いに護国神社へ参りました。

縁は続くものです。貴方のご遺影が載っている書籍をお持ちの方に見せていただき、私は貴方を肖像画として絵描くことができました。

貴方を絵描きましたよと、報告にも参りましたね。

そして3年前、何とかお墓を探し出し、やっと貴方の墓参が叶いました。

貴方の墓前で泣き崩れ、三十分もメソメソ泣いていた私を、貴方だけは御存知でした。貴方にやとと会うことができた、そんな気持ちでした。

昨年もそと貴方に会いにゆきましたね。貴方だけが知ってくれていることです。

いつかは貴方の最期の地へ……とは思いつつも、現実的ではないことも分かっています。

どこにいても、いつでも、貴方を思えば偲ぶこともお慕いして

いる心も伝わるでしょう。

これからも私の命が続く限り
貴方の元へ会いにゆきます。

どうか、少し垂れ目がちの大きな優しい目で、私がこれからも
貴方がたが生きた証を残せるよう、見守っていてくださいませ。

墓参のたび、貴方が近くにいてくださるように感じられるその瞬間を、いつも私にくださいませ。優しく笑っていてくださいませ。

.....

海軍上飛曹 大友龍二 命

宮城県大崎市出身

海軍第一期甲種飛行予科練習生

出身

横須賀鎮守府所管 偵察員

昭和十七年六月五日

東太平洋方面での作戦中に敵機と遭遇、出撃した十八機のうち五機が帰還した。大友上飛曹はそのうちの二機であったが、その後の敵機による空母飛龍攻撃時に戦死

終わり

八月十五日の終戦

記念日に想う

財団法人海原会初代会長

長峯 良斉

約半世紀前の八月十五日、長峯海原会会長は当時の世相を憂い、改めて特別攻撃隊の意義、特攻に殉じた若者、特攻を命じた大西・宇垣中将に想いを寄せ、改めて慰霊顕彰を行った。

〓百年後の神風評価〓

もう一年半くらいになるのだが、テレビのあるクイズ番組のシーンで、今もなお強烈な印象として残っていることがある。

それは「日露戦争における日本海海戦の、日本の連合艦隊の司令長官はだれ？」という問題であった。五、六名の解答者はみな二十歳代か三十歳代前半と思える秀才タイプの青年たちばかりである。その一人がバツとボタンを押して「山本五十六」と答えた。

司会者が「明治時代の日本海海戦ですよ……。次に（ボタンを）押している方……。はい、女性の〇〇さん」と指名すると、彼女は「東條英機」と答えた。

音楽・科学・スポーツ・社会等、何でもバンバン答えていくこの秀才型の青年たちに私は唖然とするより、一瞬身におそろしさにも似たものが走るのを感じた。

そのショックを受けて間もない頃、私は神奈川県警察学校（生徒は大卒・高卒合わせて約四百五十名、うち婦警さん約三十五名）へ招かれて「私のなかの青春」と題して講演を行った。興味があったので冒頭に、「日本海海戦のわが連合艦隊の司令長官の名を知っている方は」と訊ねてみた。元氣よく手を挙げ東郷平八郎と答えてくれたのは三十名くらいにすぎなかった。

私は、やっぱり、と思うと同時にゼロではなかったことに愁眉を開く思いで、さすが警察学校の生徒さんたち、と喜びを感じ、続いてもうひとつ「神風」という言葉で何を連想されますか」と訊ねてみた。これには殆んど全員が「特別攻撃隊」であると答えてくれた。そしてある生徒が「神風タクシー、神風運転」と答えたなら爆笑があがった。

そこで、時代の流れを感じつつ思うのは、百年の後、太平洋戦争で残るものは（一部専門家においては別として）ハワイ攻撃と神風特攻、それに原爆の三点ぐらいのものであるに違いないと、日頃の考えの間違っていた。

同時に、後世の史家が、日本民族の歴史をたどり太平洋戦争史をひもとくとき、真っ先に取

り組むのが、神風特攻の思想であらうと思われるのである。

なぜなら、戦後日本が経済大國に発展して未曾有の平和を享受するに至った、その礎はなんであつたかに、大きなかわりあいを持つと思うからである。

祖国の危急に際し、青年たちが苦悩をのり越え、わが身を弾にかえ、敢然と国難にあたつていつた事実は長い歴史につちかわれてきた、日本民族の魂の凝結に他ならない。この不撓不屈の精神が戦後、焼土と化した日本をこのように見事に繁栄させ開花せしめたものと信ずるからである。

ここで、神風特攻で散華した英霊の数と年齢について考察しておこう。

その数、海軍は二千五百三十五名、陸軍は千八百四十四名となつてゐる。では、年齢は何歳くらいであつたか。海軍の場合、海兵出身者百十四名、予備学生出身者六百名その他約千八

百名が予科練及海兵団出身者である。海兵・予備学生出身者はほぼ同年齢で、平均二十二歳くらいであつたと思われる。

特攻隊員の実に七十二%にあたる予科練出身者の年齢はどうか。甲飛は九期以降、乙飛は十五期生以降が主で、それ以前のクラスからの神風特攻戦死者は数えるほどに過ぎない。(古いクラスから少ないのは、この頃すでに七割以上が戦死しており、生存者が少なかったためである。)

丙飛、特乙飛の場合もほぼ同クラスにあたる。そのために、年齢は最低十七歳から二十余歳までが多い。つまり、陸軍は詳しくないので省略するとしても特攻全体の英霊の平均はほぼ二十歳くらいであつたと思われる。

Ⅱアンドレ・マルロー特攻観Ⅱ

一昨年、二十世紀が生んだフ

ランスの偉大な作家、アンドレ・マルローが亡くなり、その追悼文が、長塚隆二先生(フランス文学者、日大教授)の寄稿で読売にこう書かれてゐる。

『彼が日本および日本人の比類なき理解者であつた事実をもうひとつ披露しておこう。一九七四年六月、パリ南方郊外の家を訪れたときのことである。話が特別攻撃隊におよぶと、かすれがちな声がにわかにきびきびしてきた。そして「確かに日本は太平洋戦争で敗れた。だがその代わりに何ものにもかえ難いものを得たことを忘れてはならない。それは世界のどの国にも真似のできない特別攻撃隊である。戦後、フランスの大臣として日本を訪れたのは私が最初だが、そのときも陛下にとくとそれを申し上げておいた。

スターリン主義者たちにせよナチ党員にせよ、結局は権力を手に入れるための行動にすぎなかつた。

日本の純真な若い特別攻撃隊員たちはファナチックだったとよくいわれる。それは違う。彼らに権勢欲とか名譽欲など露ほどもなかったし、ひたすらに祖国を愛する貴い熱情があるばかりだった。代償を求めない純粹な行為、そこに真の偉大さがあり、逆上と紙一重のファナチスムとは根本的に異質である。人間はいつでも偉大さへの志向を失つてはならないのだ」と、しばし瞑想した。

——略——真に日本を愛し、高度な思想を行動に密着させた稀有の人ならではの特別攻撃隊員である。特別攻撃隊員までとやかく批判するわが国の進歩主義者たちに、とくと聞かせてやりたい言葉だった。——略——と述べられてゐる。

Ⅱ大西中将と宇垣中将Ⅱ

しからば、特攻誕生の背景は何か。大西瀧治郎中将が、比島

に展開していた第一航空艦隊の司令長官に着任と、時を同じくして発生した捷二号作戦に呼応し決断実施されたことは周知の通りである。その、よつてもつて来る理由 中將の思想等について私は未だ勉強不足であるが、当時、戦術としてそうするより他にうつ手が見い出せなかつたものであろうし、中將がごく親しいまわりの人々に語つた言葉の断片をつなぎ合わせてみると、「特攻は統率の外道である」と自らそういうながら「今の日本の危機を救いうる者は大臣でも大將でもない。若い人々の体当り精神である。この戦争は勝てないかも知らんが、青年たちが国難に殉じたという歴史が日本民族を滅ぼさないのであり、日本が敗けないためである」と語っている。そして「やっぱりわかってもらえないだろうな」といつて「わが声価、棺を覆つて定らず、百年の後、また知己なからんとす」とつぶや

き終戦とともに特攻の英霊を追つて自刃したのであつた。その遺書に「特攻の英霊に曰す。善く戦ひたり」と謝し生き残つた青年に対し「日本人たるの矜持を失う勿れ。諸子は國の宝なり。平時に処し、猶ほ克く特攻精神を堅持し、日本民族の福祉と世界人類の平和の爲最善を尽くせよ」と述べている。

そして、同じ終戦の日、最後の特攻として第五航空艦隊司令長官、宇垣纏中將が大分基地よりわずか十一機の彗星艦爆を直率して、沖縄の敵艦隊に突入散華したのであつた。（途中三機不時着し八機が突入）中將が開戦直前より終戦の日まで書きつづけた戦闘記録日記、題して戦藻録の最後の八月十五日には次のように書かれている。

——略——午後君が代に続いて天皇陛下御自ら御放送遊ばさる。ラジオの状態悪く、畏れ多くもその後の内容を明らかにするを得ざりしも、大体は拝察して誠に恐懼之以上の事なし。親任を受けたる股肱の軍人として日本此の悲運に会す。慚愧之に過ぐるものなし。嗚呼！

参謀長に続いて、城島十二航空司令官に再考を求められたるも、後任者は本夕刻到着する事明にして爾後の收拾に何等支障無し未だ停戦命令にも接せず、多数殉忠の將士の跡を追ひ特攻精神に生きんとするに於いて考慮の余地なし。顧みれば大命を拝してより、ここに六ヵ月、直接麾下及指揮下各部隊の血戦努力に就ては今更啜々を要せず指揮官として誠に感謝の外無し——（以下略）と、陛下にお詫びをし、部下の血戦努力に感謝を述べて英霊の跡を追っている。

ごく大要に過ぎないがこの二指揮官の遺書、日記により指揮発令者側の思想はほぼ了とされる——無論、その思想を深く探究するには、当時戦勢の挽回をはかるための体当りをする以外に方策なしとする、例えば桜花の

開発、有馬少將の行動など多岐にわたつて研究すると同時に、二提督について深く研究する必要があろう。

大西中將は、特攻を誕生させ発令した時点ですでに自らも時機至るを以て自刃する覚悟を定めていたに違いない。宇垣中將もまた、特攻の継続を決意したその時点で、自らもまた最後の特攻を覚悟したものと推察できる。

この間の消息は、「大西瀧治郎伝、戦藻録」等によつて窮い知るのである。

英霊に眞の慰めを

毎年めぐりくる八月十五日に想うことは、散華した全英霊たちの眞実の声である。彼らの声を聞くことであり、その声を後世に伝えることこそ、生き残つた者のつとめであると思う。日露戦争と太平洋戦争がごつちやになつてしまふようではこ

まるのである。

英霊に、心からの感謝を捧げるときにこそ、真に戦後の有難さが理解できるのである。そして子々孫々にいたるまで平和が続いてくれることであろう。

ゆえに、ひとり特攻に限らず戦病没された全英霊にとつて、われわれが平和の有難さを正しく理解し慰霊顕彰の実をあげ、後世へ語りついでいくことを誓ってこそ、真の慰めであるに違いないと拝察するのである。

終わり

.....
この記事は、昭和五十三年九月一日発行の機関誌「予科練」第二十七号に掲載されたものであり、戦後たかだか三十年を経過しただけの当時の若者（現在は六十代後半～七十代）の、考え方の変わり様を如実に表した文書である。戦後の日本がいかに先の大戦の真実から目を背け、戦いに散華した多くの兵士たちをないがしろにしてきたか

を指摘する、今から四十五年前に書かれた当時の海原会会長の私見である。

この長峯会長の声に真摯に耳を傾け、今何をなすべきかを真剣に考える時が訪れているような気がする。

そしてそのことだけが、ひたすらに祖国を憂え何の見返も求めず、ただひたすらに純粋に散華された英霊に応えることができる、今この平和な国で生きる我々日本人が出来る唯一の方法であると信じている。

(事務局)

雄翔館見学者所感

机上でしか戦争をしない少数の国家ブレーンの為に、たくさんの人達が亡くなりました。いつの時代も、その他大勢には、選ぶ権利は与えられる事が少なく、悲しいことです。虚しさ、悲しみ、腹立たしさが残りまし

た。

令和五年九月

住所不詳 中村様

.....
今の日本は、平和主義がなくなりそうで、戦争道具を買いあさっている政府はともアカン！昔の若者を見て思い出してほしい。

(日付・住所・

氏名記載なし)

.....
今日、僕が見た感想は、戦闘機に乗ってとんだ敵の艦隊を撃墜しても、死んでしまったりして、悲しくて泣きそうになりました。

(十歳)

.....
年端のいかない、私とほとんど年齢の変わらない若い世代が、戦争の犠牲になっている事実が胸が張り裂けそうな思いです。授業や文献で、その悲惨さは知っていましたが、実際に彼らが切実に生きていた証をこの目で見て、この辛く重い歴史から目を背けずに、私達が彼ら英

雄を忘れることなく戦争という記憶を心に刻み、人生を生きていこうと思いました。

(二十一歳)

(日付・住所・

氏名記載なし)

.....
曾祖父の兄弟が戦死していることもあり、幼少のころから父と資料館などで見学する事が多々ありました。現在、息子達と見学していると戦地に息子を出す事を思うと涙が止まりません。今後最後の世代に見てほしいと思うばかりです。

(四十六歳)

令和五年十月

茨城県取手市 鶴田様

.....
戦争は、どれだけの人が死亡しているのかよくわかった。これ以上、戦争をしないでほしい。

令和五年十月

茨城県水戸市 飛田様

お隣の予科練平和記念館から
こちらの「雄翔館」に伺いまし
た。こちらでは、隊員の方々の
遺書や貴重な品の数々を見学さ
せていただきました。特に館内
での音声案内に耳を傾けながら
展示品を見て当時の光景が目
浮かびました。

また、回天や震洋、桜花など
の特殊な特攻兵器についての展
示も目を引きました。私よりも
若い方が、強い意志を持って戦
いに散って行ったと考えると胸
が苦しいです。

今日は、大変有意義な時間を
過ごせました。ありがとうございました。
戦死された英霊の方々に追悼の意を表します。

令和五年十月

埼玉県比企郡 伊藤様

大切な歴史をご紹介、ありが
とうございます。

先人の苦労があつて、今日
本があると感じました。

令和五年十月

東京都港区 清水様

遊んでばかりいた自分の十
代、二十代の頃を思うと、この
人たちはとても大変な時代に生
まれたんだと思う。以前、知覧
に行った時も感じましたが、死
ぬとわかっていて、戦地に行く
気持ちはどんなだったのか、ま
して遊びたい盛りの少年・青年
なのに、すごく勇気のいること
だと思った。

令和五年十月

愛知県 小林様

私と同年代、それどころか私
よりも年下の青年達が覚悟をも
って敵へと向かうその姿が想像
できませんでした。

自墮落で、フラフラできてい
るのも彼らのような先輩方のお
かげであると、今一度実感し、
後悔の無いように過ごそうと思
います。ありがとうございました。

令和五年十月

東京都足立区 鈴木様

昭和五十四年、自分が中学生
の頃、学年主任が予科練出身で
した。当時、予科練の存在は知
ってはいましたが、今考えれば
先生から当時の話を聴いておけ
ば良かったと思います。

令和五年十月

埼玉県熊谷市 前田様

こんなかんじで戦争して、人
が亡くなるなんて、みたら泣い
ちやいます。

令和五年十月

住所不詳 本間様

胸を締めつけられる想いで拝
見させて頂きました。

病氣について悩む自分の小さ
さにも気づきました。この方々
の念いと思うと現代でも行われ
ている戦争が残念でなりませ
ん。一刻も早く世界に平和が戻
ることを願ってやみません。

ここにある写真の方々のご冥
福を深くお祈りしますと共に、
この館のスタッフの方々、海原
会の皆様に深く感謝いたしま

す。

令和五年十一月

住所・氏名記載なし

こんなに人が犠牲になっては
僕もとても寂しいです。でもこ
の国を守るために自分のことに
もかわらず、家族、仲間たち
のためにこんなに勇敢な人はす
ごいです。今までかわってき
た人たちは一生忘れないほどで
す。家族たちはどういふ思いを
していたのか聞きたくなりま
す。でも、皆さんに勇気を渡し
ているのでしょう。なので、僕
は怖い時、負けそうな時は、こ
の勇気を最後の最後まで頑張
り、この何人も犠牲になった人
たちがすごいです。

令和五年十一月

住所不詳 相本様

ありがとうございます。

亡父は昭和二年生まれ、予科練
に入り、前日に飛行機を空爆に
より失い命拾いをしました。た
だ、その事はずっと妻である母

にもつげる事なく、又、その頃の物は（過去のもの）全て捨て、焼き、何も持っておりませんでした。母が、その事を知ったのも当時の班長が、父の所を

探し、訪ねて来られた事で知りました。母は、この地へ来たいとずっと切望していましたので、今回連れて来られました。この時代に生きる私共が、絶対

（公財）海原会寄付者御芳名簿

（敬称略）（単位千円）

五	吉田	一則様	（一般）	東京
一〇	住谷	定様	（甲15）	茨城
一〇	洪澤	啓次様	（一般）	埼玉
五	岩館	芳雄様	（乙24）	東京
一〇	加藤	正春様	（一般）	東京
五	吉川	政次様	（乙23）	滋賀
五	伊藤	恭生様	（甲5遺）	岩手
五	福本	貞之様	（乙21）	静岡
一〇	飯干	亮一様	（非会員）	岐阜
五	本間	謙伸様	（甲15）	群馬
一五	磯貝浩二郎様		（甲3遺）	岐阜
三	深山	銅一様	（一般）	千葉
三	二階堂安雄様		（乙9遺）	大阪
五	菅野	勝寛様	（一般）	静岡
五	菅野	寛也様	（一般）	静岡
五	伊藤	元夫様	（一般）	北海道

海原会へのご芳志誠に有難うございました。



事務局日誌

に忘れてはいけない、大切な事がここにはたくさんあります。

令和五年十一月

千葉県南房総市 小澤様

三月

四日

機関誌編集会議

於 ZOOM会議

機関誌（五、六月号）の編集会議を、ZOOM会議で実施した。

参加者 塚理事、平野理事、工藤会員、原会員

五日

小野評議員来局

於 海原会事務局

小野評議員が来局し、霊祭準備の状況について報告

九日

（株）UTK取締役来局

於 事務局・雄翔園

雄翔園内池の水質浄化装置設置の事前調整の為、担当

者が来局 慰霊祭

第2回実行委員会

於 海原会事務局

第2回実行委員会を実施

参加者 星指副理事長、平野理事、篠田理事、塚理事、湯原評議員、巻島評議員、行方参与、原委員、木下事務局員

十三日

巻島評議員来局

於 軸局

巻島評議員が来局した

雄翔館定期清掃実施

於 雄翔館

平野事務局長が立会

十五日

ご遺族来局

於 事務局

乙飛3期、7期生のご遺族

青木様が来局し、平野事務局長が対応した。

十八日

予科練平和記念館運営協議会

於 予科練平和記念館

平野理事が出席した。

慰霊祭用祭壇の搬入

於 雄翔園

新しく製作した慰霊祭用祭壇
画面搬入された。

二十五日

浄化装置設置作業

於 雄翔園

雄翔園池浄化装置の設置作業
が行われ、平野事務局長
が立ち会った。

三十日

武器学校観桜会

於 武器学校

出席者 宮本顧問

平野理事、巻島評議員が雄

翔館案内

四月

一日

慰霊祭特別展準備

於 雄翔館

平野理事と行方参与で特別
展の準備作業を行った。

七日

ご遺族来局

於 事務局

甲飛ご遺族の飯干様が来局
十日

三者会同

於 事務局

十二月計画中の三者共催の
イベントについて打ち合わ
せを行った。

二十日

四月定例理事会

於 事務局

出席者 宮本理事、平野理
事、篠田理事、山下理事、
塚理事、原監事、行方参

二十二日

会員の事務局来訪

於 事務局

会員の安田直弘様が来局

五月

八日

更生保護女性の会

会長来局

於 事務局

大竹会長が慰霊祭の支援調
整のために来局した。

十一日

慰霊祭第3回実行委員会

於 事務局

参加者 星指副理事長、平

野理事、篠田理事、

塚理事、湯原評議員、巻島

評議員、行方参与、工藤委

員、原委員、石田委員、小

林委員、安部委員、木下事

務局員

十七日

手水鉢用樋の作成

於 雄翔園

平野事務局長、行方参与が
武器学校の支援を得て実施

武器学校校長表敬

於 武器学校

宮本理事長と平野理事が学

校長を表敬した。

二十三日

下総基地表敬訪問

於 海自下総基地

宮本理事長、池顧問、平野

理事が下総航空基地を表敬

訪問した。

二十五日

戦没者を偲ぶ集い開催

於 L, A U B E

二十六日

予科練戦没者慰霊祭

於 雄翔園

【お知らせ】

海原会機関誌「予科練」では
会員の皆様からの投稿記事を募
集しております。

- ・同窓の方の思い出
- ・予科練・海軍に関わる事
- ・慰霊・顕彰への思い
- ・海原会へのご意見
- ・「予科練」へのご意見等お気軽にお寄せください。

【原稿のお送り先】

〒300-0301

茨城県稲敷郡阿見町

青宿489-1 慎輝ビル 3階

公益財団法人 海原会 事務局

電話：029-886-5400

[E-Mail]

y-hirano@yokaren.jp

海原会会員の皆様へ

小さくてもあたたかい

一日葬 家族葬

お葬式のご依頼や
「もしものとき」に
備えた事前のご相談
年中無休で承ります

相談
見積 無料

お客様満足度
99%※

自宅葬、一日葬、お別れ会のほか、
ご希望に合わせた
お葬式プランがございます。

※当社施行客アンケート調べ

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。墓石工事は信頼の10年間の保証書付きです。

墓所工事

標準価格
(10万円以上)の
10%割引

サービス提供エリア:
関東・関西・東海



「お墓のお引越しガイド
& 事例集」

無料で資料を差し上げます。

お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式
セットプラン」を各種ご用意。最適
なプランをお選びいただけます。

葬儀

祭壇標準価格の

20%割引

※一部斎場、一部商品を除く。
新花で送る家族葬は
優待料金
サービス提供エリア: 関東



「お葬式の流れが
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。
伝統型仏壇や家具調仏壇、手
元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇

店頭価格の

25%割引

※ただし、催事特価品と
仏具小物、手元供養商品
は対象外
サービス提供エリア: 関東



「お仏壇カタログ」
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは
海原会事務局へ

029-886-5400

お問合せの際は、「予約線を見た」とお申し出ください。

MAO
MEMORIAL ART OHNOYA



メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予約線」第483号7・8月号

令和6年7月1日発行 発行人 安井 剛
(隔月奇数月1回1日発行) 編集人 塚 純一

発行所 〒

300-0301

公益財団法人 海 原 会
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1
(慎輝ビル3階)

郵便振替
00114015433002
FAX 029-886-5400

定価500円